

# 伊勢鋼材、中国に鍛造工場

## ステンレス製品 27年春本稼働

ステンレス流通の伊勢鋼材（本社＝大阪市淀川区、松森栄治社長）は、中国・大連にステンレス鍛造製品の新工場を建設する。2027年春から本格稼働予定で、投資額は第1期工事で約5000万円。半導体製造装置関連など成長分野への拡販を図り、国内工場と大連にある既存の鍛造工場とともに、より強固なグローバル供給体制構築を目指す。

同社は1970年に

設立し、ステンレス丸棒など鋼材の在庫販売から鍛造品、鍛造品の生産、機械加工を手掛ける。2006年に大連で鍛造品を製造する「伊勢精密金属」を設立。ロストワックス製法による精密鍛造から機械加工まで一貫して対応でき、自動車部品や産業機械部品、バルブ、ポンプ部品、建築部品などを生産してい

る。

今回新たに「伊勢精密鍛造」を立ち上げる。新工場の敷地面積は約2万3000平方メートルで、1期工事では鍛造、金型、機械加工の設備を導入する。2期工事は約10年後をめどに、伊勢精密金属の鍛造設備を移設する予定。移設後、伊勢精密金属の鍛造工場では高合金の鍛造やアルミ部品、焼結部品、部品組

工場完成イメージ



み立てなど新規分野に取り組み方針だ。

国内では今年6月、大阪府八尾市に八尾第2工場を開設した。従来は鋼材の加工販売や、協力会社から仕入れた鍛造、鍛造などの素形材を販売していた。今後は、成長が見込まれる半導体製造装

置関連などをターゲットに部品組み立てやクリンルーム設置なども検討している。

同社は品質保証に強みを持つ。大連の工場では各種検査器をそろえ、3DCADなど設計開発にも注力。国内工場でも、近年特に品質管理に関する設備・人材投資を強化している。

グループ合計の業績は年商100億円弱で、2035年には150億円達成を目指す。松森社長は「中国での新工場建設は懸念もあったが、圧倒的な潜在能力を感じている。国内外の工場ともに今後さらに品質体制を強化しながら、事業を拡大していきたい」と話す。